

訃報

追悼 林理先生

大型計算機センター、情報基盤センタースーパーコンピューティング部門で長らくプログラム指導員をお務めいただいた林理先生は平成 17(2005)年 12 月 29 日にご逝去されました。

先生は東京工業大学大学院理工学研究科に在学中の昭和 63(1988)年度から今年度に至るまで、東京工業大学心理学研究室、武蔵野女子大学（現・武蔵野大学）と御所属は変わりましたが、18 年間にわたってプログラム指導員の大任をお引き受け下さいました。

先生は災害心理学、社会心理学、しきり行動の心理学などリーダーシップや集団行動論を研究領域とされ、『防災の社会心理学 社会を変え政策を変える心理学』（川島書店、2001）、『「しきり」の心理学 公式のリーダーと非公式のリーダー』（学陽書房、1998）、『職員室の社会心理 学校をとりまく世間体の構造』（ナカニシヤ出版、2000）等を著わされました。

ご専門の社会調査集計処理のために大型計算機を利用され、「社会調査集計法」（東京大学大型計算機センターニュース、Vol. 23, No. 2, 1991）、「統計パッケージあれか、これか」（北海道大学大型計算機センターニュース、Vol. 23, No. 1, 1991）ほか、『情報社会における情報処理入門』（久美、2001）など社会調査集計の方法論、情報処理教育に関する論著も残されました。

平成元（1989）年 7 月号以来、大型計算機センターニュース、スーパーコンピューティング・ニュースにお寄せいただいた情報化社会における心理行動について考察された一連の投稿原稿群は、先生の著書中にしばしば参考文献として掲げられていることでも明らかなおり、研究活動の一環をなすものであるとともに、スーパーコンピューティング部門が提供するサービスにとって時には厳しい貴重なご意見を含むものでした。

先生は一貫して汎用大型計算機の利用者でありました。これらの原稿は紙面でお分かりのとおり、汎用大型計算機上の日本語処理システムを利用して作成されたものです。

プログラム指導員としての先生は、豊富なご経験と知識とを活かされて、真摯に対応くださり、多くの利用者から信頼を得るとともに、センター運営に対しても貴重なアドバイスを与えられました。

ここに、45 歳の誕生日を迎えることなく永眠された先生の生前のご尽力ご功績に深謝するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。